

「た」は、誰もが自由に活動できる場で、一人ひとりが主役として輝くという願いが込められています。また、シンボルマークは、男女が仲良く肩をならべている様子を描いており、性別にとらわれず、ともに歩んでいくという願いが込められています。



エセナおおたシンボルマーク

男女共同参画意識の広がりの実態

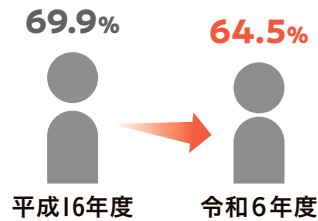
大田区では、男女共同参画社会の実現に向けて、様々な事業を実施してきましたが、区民の意識はどのように変わったでしょうか。20年前の意識調査と比較すると、「職場での男女差別はない」と思う割合が23・5ポイント増加し、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考えに同感しない割合が25・1ポイント増加してい

ます(図1)。しかし、実際の家事・育児の分担は「女性である」割合は5・4ポイントの微減となっており、男女共同参画意識は向上しているものの、実際の家事分担との間にギャップがあることがわかります。家事・育児に関して、依然として女性への負担が大きいのと考えられます(図2)。

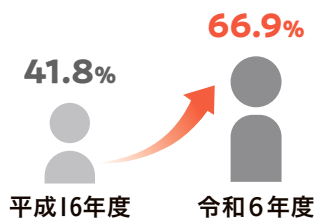
男女共同参画のこれから

令和7年度、大田区では、男女共同参画推進プランを見直し、ジェンダー平等や多様性に配慮した第9期プランの策定を行います。また、「エセナおおた」では、男女共同参画の拠点施設として、時代のニーズに合わせた講座や展示を実施していきます。気軽に立ち寄れるカフェや図書コーナーもありますので、新しい「エセナおおた」へぜひお越しください。

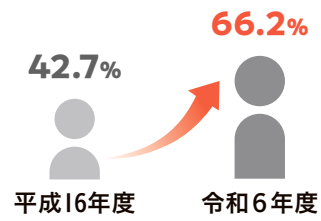
実際の家事・育児の分担は女性である(※3、※4)



「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考えに同感しない(※2)

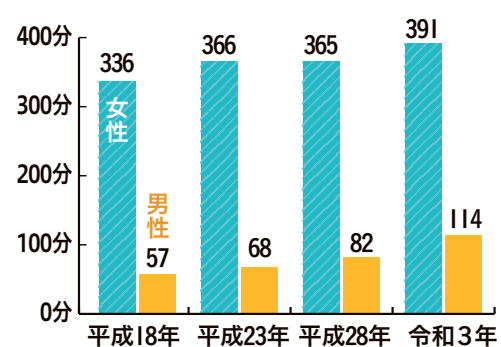


「職場での男女差別はない」と思う



(図1) 世論調査から見る20年の変化(※1)

- ※1 「大田区男女共同参画に関する意識調査報告書」より作成。
- ※2 「同意しない」には「どちらか」と同意しないを含む。
- ※3 「家事」は「料理、洗濯、掃除」を示す。
- ※4 「女性である」は、「主に女性」及び「どちらか」という女性の合計。
- ※5 内閣府「男女共同参画白書 令和5年版」参照。6歳未満の子供を持つ妻・夫の家事関連時間。



(図2) 共働き世帯の家事関連時間の推移(※5)



Special Interview

エセナおおた センター長 ひがし かおり 東 香織さん

私はもともとエセナで開催されていた講座の参加者でしたが、ご縁があってエセナの運営に携わるようになり、平成27年4月からセンター長となりました。ジェンダーの問題は私たちの生活全般にかかわることなので区民の皆さんに自分事として捉えてもらえるような工夫を常に考えています。男女共同参画やジェンダー平

等について深く学びたい人はもちろんのこと、ふらっと気軽に立ち寄れる場でもありたいです。5階のフリースペースでは、食事や雑談ができますし、小学生は宿題をしたり、ゲームをしたりして自由に過ごせます。周囲にある展示や本に触れたり、職員と気軽に話したりしながら、自然と情報を得られる場づくりを心掛けています。

